

< 発達段階別の足型と姿勢の関連性における実装研究 >

研究年度 令和 6 年度

研究期間 令和 5 年度～ 令和 7 年度

研究代表者名 大重育美

共同研究者名 坂本仁美、山口多恵、飛奈卓郎

・ はじめに

発達段階別の足型と姿勢の関連性の中でも、今回は、看護師を対象に腰痛と足型の関連を報告する。看護師の腰痛有訴率は、54.3～75.0%と高く、健康問題として重要な課題となっている。また腰痛の発生要因として、姿勢に影響をあたえる足部の状況に着目した。本研究の目的は、看護師の腰痛の程度と足部状況との関連を明らかにすることである。

・ 研究内容

方法は、中小規模病院で勤務する看護師を対象とするため、長崎県看護協会で開催された研修会参加者に依頼した。看護協会での調査を行うため、看護協会長等への依頼文書で調査についての説明を行い、承諾を得た。各研修会終了後にアナウンスを行い、協力者のリクルートを行った。調査期間は、2024 年 7 月～10 月であった。看護師の腰痛、足のトラブルに関する回答を Google Forms を用いて収集した。足部の状況（母趾角度、小趾角度、接地面積）はフットルック社のフットルック®で測定した。姿勢のバランスは、接地面積（%）の左右差を測定した。なお、本研究は、長崎県立大学の一般研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

・ 研究成果

看護師 43 名の協力を得た。平均年齢 41.8 歳、女性 38 名、男性 5 名であった。腰痛の程度は、腰痛なし 5 名、軽度腰痛あり 32 名、常に腰痛あり 6 名であった。腰痛の程度別では、日常的な運動、扁平足、足のトラブルとの関連はなかった。足部の状況では、小趾角度で有意差があった。

・ おわりに

看護師の腰痛は、足部状況の一部と関連があり、姿勢への影響が示唆された。看護師の腰痛は、小趾角度と関連していることが示唆された。

なお、看護師だけでは、対象者数の獲得が難しいため、同じ保健衛生業の介護職も腰痛の影響が大きく関わるため、対象を拡大した。2025 年 3 月に離島の介護施設での調査を予定している。調査結果については、後日の報告となる。